

しも さむらい づか こ ふん
下侍塚古墳

おおたわら ゆ づ かみ
栃木県大田原市湯津上地内

R7第1回現地説明会資料 令和7(2025)年7月19日(土)

栃木県生活文化スポーツ部 文化振興課
宇都宮市埴田 1-1-20 TEL 028-623-3425

公益財団法人とちぎ未来づくり財団
埋蔵文化財センター
下野市紫 474 TEL 0285-44-8441
<http://www.maibun.or.jp>

栃木県では重要遺跡を調査研究・活用する「いにしえのとちぎ発見どき土器わく湧くプロジェクト」事業として侍塚古墳の調査を進めています。下侍塚古墳の調査は令和7年度で2年目となります。今年度これまでの調査で分かった成果をご紹介します。

1 後方部西斜面 (S0西斜トレンチ)

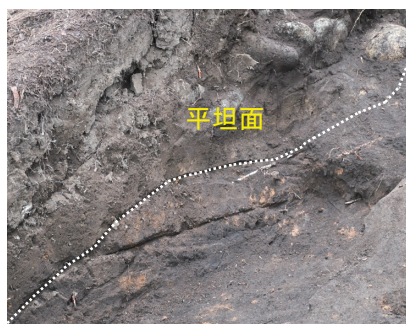
後方部の西斜面では、築造当時の墳丘の姿と江戸時代の整備の状況を調査しています。墳丘斜面の2カ所で平坦面が確認され、墳丘は3段で構築されているようです。

墳丘の表面は葺石が施されていました。一部の葺石は既に転落していましたが、平坦面以外の墳丘斜面全体に葺石が設置されていたとみられます。葺石に混じって墳頂部から転落してきた赤彩された土器片が出土しています。

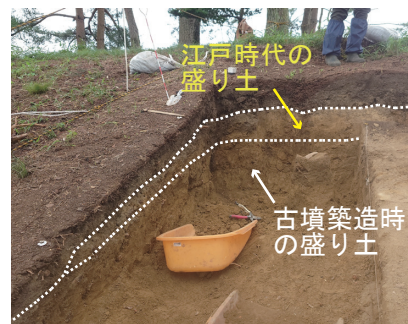
さらに墳頂部付近では江戸時代の発掘調査に伴う古墳修復時の盛り土を確認しました。



後方部西側の全景



平坦面の様子



墳頂部の盛り土の様子

2 西くびれ部 (W8くびれ区、W13くびれ斜トレンチ、S30西トレンチ)

くびれ部の後方部側2カ所の調査区では墳丘3段の下段を確認しました。後方部側では、裾付近が急斜面になり比較的小さな葺石を大きさを揃えて施している様子が分かりました。

転落した葺石に混じって埴輪の破片や赤彩された壺型土器の破片が出土しています。



くびれ部での作業の様子



W8くびれ区の様子



W13くびれ斜トレンチの様子

3 前方部南西側(S47西トレンチ、W14南トレンチ)

前方部西側では、築造当時の墳丘の確認とともに1975年に調査したトレンチを国土座標で再測量する作業も進めています。



1975年調査トレンチ確認の様子

